

「ジル・サックシク展」に寄せて

画面の斜め上から光が差し込んでいる。月明かりではない、星の灯りでもない、まして人工のそれではない。自然のままの陽の光だ。

木枠の窓はいつの間にか開け放たれている。かすかに木の葉の擦れるらしい風の音がする。野の匂いがする。木立の向こうは広い畑だ。農家の朝は早い。

小ぶりの食卓に敷かれたテーブルクロス、さりげなく置かれた壺や瓶。画家の眼差しの優しさ。穏やかで温かな空気が流れる。

画家の名は、ジル・サックシク。1942年、パリ生まれ。その作品との出会いは「私の愛する一点展」の第8回展であった。D氏が出品した作品は「水差しとコーヒー沸かしとシトロンの実」。題にあるとおりの静物画だ。澄んだ感性。確かな存在感、淡く抑制された色使い。

「いいなあ」としか言いようのない、観るものを幸福な気分させてくれる絵であった。

それから十年が過ぎようとしている。その間、サックシクの絵を何度か観たが、印象は変わらない。梅野記念絵画館でのサックシク展。画家の展覧会に似合わない展示空間を提供できたであろうか。ご高覧を願う。

梅野記念絵画館館長 佐藤修

2017年展覧会スケジュール

	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8
大展示室	第17回 私の愛する一点展 10/1迄	信濃芸術祭期間	吉岡憲 VS 小出三郎 10/15~1/14			収蔵品整理のため休館	フェルデナンド・ホドラー 2/15~3/31					
ふれあい館	天空の芸術祭 9/30~10/31		ジル・サックシク展 11/7~1/14				市民ギャラリー 2/15~3/31			未定		

変更となる場合もございます。

2017年イベントスケジュール

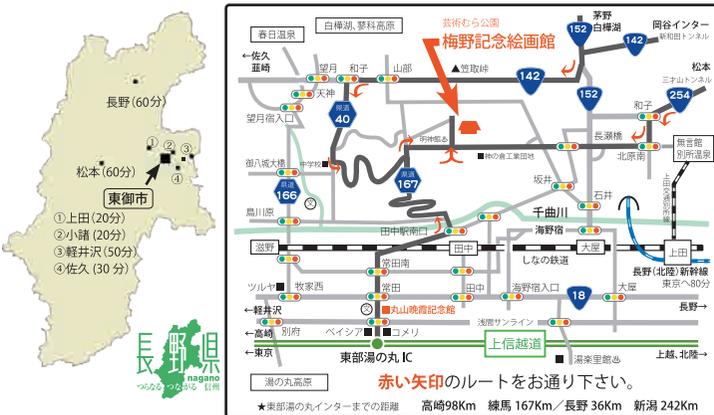
- 9月30日(土)~10月1日(日) 火のアートフェスティバル
- 10月22日(日) 講演会『吉岡憲・小出三郎を語る』(要予約) 13:30~
- 11月12日(日) シャンソンコンサート (要予約) 13:30~
- 12月3日(日) 年賀状をかこう~絵手紙教室~ (要予約) 13:30~
- 12月9日(土)~10日(日) アートツアー:群馬県立近代美術館方面 (要予約)

施設情報、開館案内

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>
 〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1
 TEL0268-61-6161 FAX0268-61-6162 umenokinen@ueda.ne.jp
 開館時間 午前9時~午後5時(4時30分迄にご入館ください)
 入館料 800円(高校生以上)団体割引700円(15名以上)
 身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。
 休館日 10月16、23、30日 11月6、13、20、24、27日 12月4、11、18日 1月9日 冬期休館 12月25日~1月4日

アクセス

- お車** 練馬ICから2.5時間
- 鉄道** 東京から最速2時間
- ◆関東、北陸方面から
上信越道東部湯の丸インターから15分
- ◆関東、北陸方面から
北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、田中下車。
- ◆中部、関西方面から
長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間
- ◆中部、関西方面から
特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、田中下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@fomtomi785.jp

Il joue la lumière, après la couleur viendra

Gilles Sacksick 展

光を奏で そのあとに 色やってくる

2017年11月7日(火)~2018年1月14日(日)



透明なゼン

1942年パリ生まれ。
 1979年ポール＝ルイ・ウェイエール肖像画大賞。
 1997年ブルデル美術館にてパリ市主催の個展開催。
 パリ、ニューヨーク、ロンドン、東京等で個展開催。
 2004年映画「サックシク・エ・ラ・クルール・デュ・タン」が
 第28回国際ユネスコ芸術映画祭審査員推薦映画となる。



東御市梅野記念絵画館

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 TEL.0268-61-6161 FAX0268-61-6162



ふたつづつ

…人々は静かに近づいている。とはいえ無意識と結びついた官能の魅力を言葉であらわすのは野暮というもの。

R・ドアノー (写真家)※



メヴェーン



ソフィーの花

自然の美と神秘は、極く身近な物たちに宿るということを、これほどさりげなく、しかも強い実感をもって示してくれる現代絵画を私は他に知らない…。

橋本博英 (画家)

※出典ロベール・ドアノー写真集「芸術家たちの肖像」岩波書店刊 堀内花子訳



ヴィルジニ

幼年期…台所が自分のアトリエだった。

G・サックシク



ボデゴン

今日稀になってしまったこと
求心的な精神の塔もしくは古くなっても
美しい精神の象徴がこれまで必要であ
たりまえであろうか：創造や探求する努
力というものが両眼で素晴らしいもの
に出会うことに委ねられている…という同
じ意見を持った君がいて幸せだ。

A・ドテール (作家・詩人)